

子どもからお年寄りまで、誰でもが参加交流しながら、花や収穫物を楽しむ農園です。

その他

ボランティアルームやレストラン、売店、理容室、美容室もあります。

シルバーエリアといえば、高齢者対象と考えてしまいますが、年代に関係なく利用できますので、ぜひ一度ご家族揃って来館してみてくださいいかがでしょうか。開設以来すでに十二万人の利用者があります。

このコミュニティセンターに隣接して、「大館鹿角健康福祉センター(旧・大館保健所)」もあります。

介護の拠点

大館市特別養護老人ホーム

「つくし苑」

介護保険で介護度一から五の認定を受けたかたで、家庭内での介護を受けることが難しいかたのための施設です。定員は百名で、専門のスタッフが介護に当たっています。また短期間の入所の受け入れ(ショートステイ)も実施されています。さらに、デイサービスセンター、在宅支援センターも併

設されています。



自立生活のできるかたは 大館市ケアハウス「ほうおう」

六十歳以上(夫婦の場合はどちらかが六十歳以上)で、自分で日常生活ができるかたが入居可能です。食事は、食堂で提供されたものを一緒に食べますが、基本的にはそれ以外の日常生活は各自で行います。簡単に言えば、高齢者が対象の「賄い付きの住宅」とも言えます。個室三十四室、夫婦室八室で、定員は五十人です。

子どもからお年寄りまで 大館市ふれあいセンター

「やまびこ」

北部シルバーエリアを巡回する

北側の道路の、子ども用の遊具がある広場に、ふれあいセンター「やまびこ」があります。子どもからお年寄りまで、誰もが集い、触れ合える交流施設です。

休日ともなると、広場も施設も親子連れでにぎわいます。多目的室、遊戯室、図書室などがあり、どなたでも利用できます。成章児童センターを兼ね、成章小学校の1〜3年生七十人が登録し、そのうち十二人は放課後対策として通っています。



「やまびこ」の入口ホール

百間は一見にしかず

今回の訪問でいろいろなことを考えさせられました。第一に、社会構造のことです。人間は、生まれてから、幼児、青少年、壮年そして年老いて介護を受けるといいう一連の流れの中にいます。だから

こそ、その年代別構成を三十年先、五十年先まで考えていなければならないと思います。

第二に、世代間交流の大切さです。年長のかたが身に着けた技能や経験を、次の世代にも伝えさらに発展させていかなければならないと思います。

北部シルバーエリアでは、これらの問題に対応するよう運営されていると感じました。さらにこのような施設が街の中にもあれば、私たちの暮らしもよくなるのではと考えさせられた訪問でした。皆さんもぜひ一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

